

# おらほの病院

103

～あたたかな医療をめざして～

諏訪中央病院 リレーコラム

# 医療・介護・福祉の 未来を考える

この1年、統括院長や福祉21の副代表幹事という立場になったことで、在宅医療や介護施設、茅野市の福祉政策にもかかわるようになりました。今回は医療よりも少し広い範囲で未来を考えてみたいと思います。

「地域共生社会」という言葉をご存知でしょうか？福祉の領域で目指している社会で、子供・高齢者・障害者など全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に作り、高めあうことが出来る社会のことです。地域共生社会を実現するために、支え手側と受け手側に分かれるのではなく、地域のあらゆる住民が役割を持ち、支えあいながら、自分らしく活躍できる地域コミュニティを育成していくことを目指しています。

## 諏訪中央病院 統括院長

いま い たく  
今井 拓



今井 拓（いまい・たく）

統括院長兼人工透析センター長。東京女子医科大学病院循環器内科にて研修。大阪市立総合医療センター、循環器内科での勤務を経て、平成18年諏訪中央病院。

を維持することが困難になりつつあります。そのような時代の中で「社会的共通資本」と「地域共生社会」の2つが、未来をより良く変えていくキーワードなのではないかと考えています。

「社会的共通資本」に関しては、第100回の「おらほの病院」で、佐藤泰吾院長が詳しく書いていますが、経済

学者の宇沢弘文氏が提唱した概念で、自然環境、社会的インフラストラクチャー（交通機関、上下水道など）、制度資本（教育、医療など）を指します。人口が減少し社会が縮小していく中で、それぞれの「社会的共通資本」をどの範囲で協力してどのように残していくのが重要で、また限られた資源の中では住民同士が「役割」を持つて「支えあう」ことで、それぞれの持続可能性が高まると考えます。

特に福祉の領域では、行政や専門職だけに依存せず、地域住民が主体となって互いに支え合うインフォーマルサポートの仕組みを構築することも重要です。茅野市は福祉21の活動で時代の先端を走っていましたが、継続には若い力・新しい力が必要です。引き続き地域の皆様のお参加をお待ちしています。

また、当組合の介護施設でも、施設の老朽化に加えこれからの時代にあった施設作りが必要になっていきます。2025年度は「次世代型の福祉環境整備のための基本構想」を策定していく予定です。利用者さんの残る力や知恵を生かし、主体的に生きることが出来る環境をつくることを目指します。色々な世代や立場の人が混じり合うことで「地域共生社会」を体現できるような介護施設ができればと考えています。

地域共生社会の理念で最も共感できるところですが、人は自分の持てる力を誰かのために使いたいと考えている生き物です。どんな人でも最後まで「役割」を持ち続けられる社会をつくっていききたいと思えます。

次回は5月4日掲載予定  
（題字は鎌田實名誉院長）